



# おながわ復興ニュース 第3号

発行：女川町企画課復興推進室（女川町立第二小学校2階）  
問い合わせ先：0225-54-3131

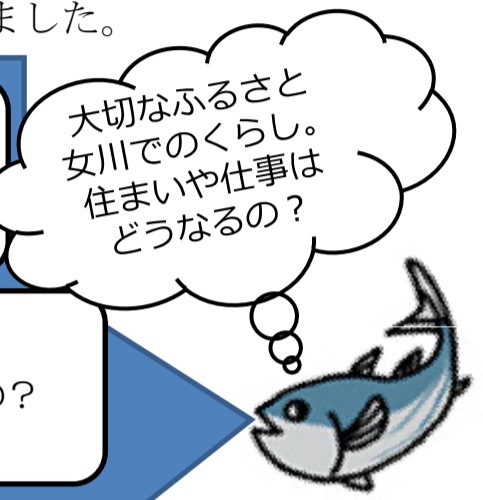
## 公聴会（住民説明会）を開催しました

復興方針及び復興計画案についての説明と皆さんからの意見をいただくために、5月22・27・28日の3日間、離半島部から町内中心部の5か所の会場で公聴会を開催しました。参加者は5会場で540人。会場内の皆さんは「これから町の復興はどうなるの？」という不安と期待に満ちていました。この公聴会での意見を踏まえ、港町女川の特長を活かした復興方針がまとまりました。



**かさ上げてどのくらいするの？**

- どのくらいの高さまでかさ上げするの？
- ★ 盛土の高さは十分な排水設備をしても5mが限界との見解。土木技術的なことも含め、専門家と協議しています。



**高台移転は仕方ないけど…**

- 高台での生活は高齢者に負担が大きい。なにか配慮はあるの？
- ★ 効果的な路線バスの運行などを検討していきます。

**住宅地の候補はどうなってるの？**

- 水産加工施設の背後地に住宅地を確保できますか？
- 万石浦の地域も地盤沈下で冠水するなど被害が出ています。
- ★ 宮ヶ崎や石浜周辺の高台にも住宅地の確保を検討します。
- ★ 針浜地区についても高台の住宅確保を検討します。

**離半島部のくらしはどうなるの？**

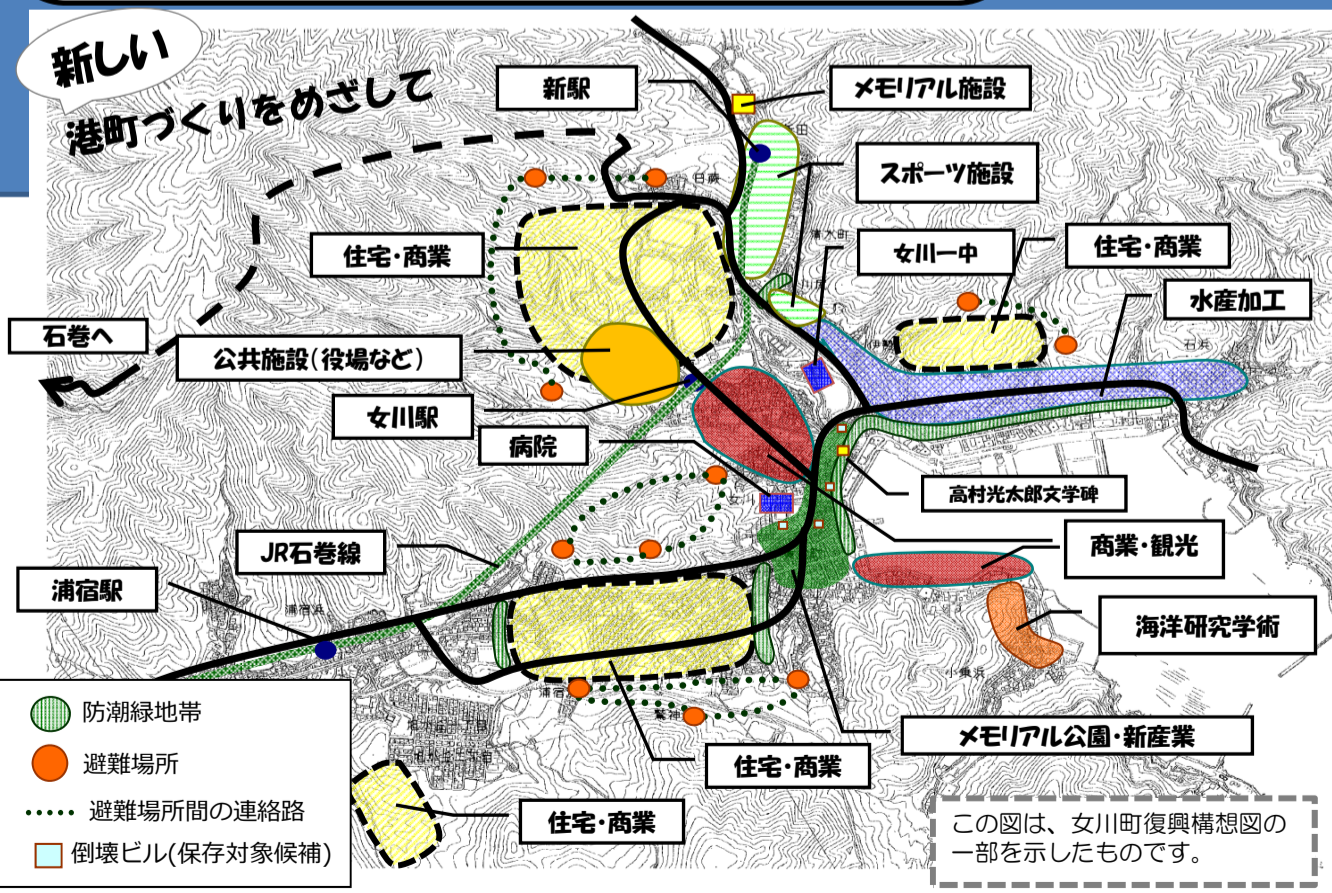
- 各地区に数件残った集落は集約されるの？
- 集落の集約化は認められない。現集落の背後地に高台住宅地を整備して欲しい。
- ★ これまでの漁港を同時に整備するには長い時間が必要ですが、数か所にまとめれば集中的に整備が進み、時間的にも、漁業の協同化など様々なメリットがでます。引き続き皆さんとの話し合いの中で、よりよい集落づくりを検討していきます。

**漁業や商業などはどうなるの？**

- 冷凍施設は国の補助を確保してほしい。
- 被害の少ない港から整備して、早期再開したい。
- 仮設店舗の整備も進めてほしい。
- ★ 復興には莫大な財源と時間を要します。国や県などの関係機関と調整しながら、段階的に整備を進めていきます。
- ★ 個人事業主の皆さんへの直接支援はむずかしいですが、各種組織との協働での対応も検討したいと思っています。

**建築制限がかかっているけど…**

- 今までの場所に新築や増築はできるの？
- 家をリフォームしてもいいの？
- ★ 建築制限地域では、新築・増築ともにできません。
- ★ リフォームはできます。



**家は建てたいけれど…**

- 高齢なので自力再建はむずかしい。
- 家も船も養殖施設も流失。家を再建するのはむずかしい。
- ★ 公営住宅(災害復興住宅)の建設も考えています。

**復興計画って？**

- 復興計画策定委員会を知らない人も多いので、検討内容などを多くの住民に知らせてほしい。
- ★ ご指摘ありがとうございます。情報提供に努めてまいります。

と、いうことで…

次回の公聴会は…  
7月下旬を予定しています  
詳細は改めてお知らせします。



## 第3回女川町復興計画策定委員会を 開催しました

第3回女川町復興計画策定委員会を6月10日に開催し、公聴会での意見などを参考に、復興方針をまとめました。以下は、委員会の検討内容と各委員からの意見です。

### 当面の生活への対応

- ・公聴会では当面の生活についての意見が多くあげられました。女川で生活を続けるためにも、対応策を検討する必要があります。
- ・10年後の姿を議論することも重要ですが、当面の生活の見通しをお示しすることで、復興方針への理解も深まるのではないのでしょうか。
- ・早期に仮設店舗を設置することで復興にスピード感が出るのではないのでしょうか。
- ・仮設店舗は個別に役場に要望を出すのではなく、組織的に計画を立てたうえで要求することが必要です。

### 総合計画と復興計画の整合性

- ・住居の安全性というメリットで移転、集約を判断するだけでなく、医療や福祉の問題などを含めてまちづくりのビジョンを示す必要があるのではないのでしょうか。
- ・女川は従来と全く異なる形で再建するため、住民の皆さんにゾーニングを見ていただきながら一緒に考えていくことが重要です。
- ・今後も公聴会や意向調査などを実施して、みんなで考えていきましょう。

### 医療・福祉

- ・病院は町の福祉のシンボルとして拠点になるべきです。離半島部も各集落に診療所をつくるのはむずかしいので、往診の充実や、いずれは仮設グループホームのあり方等についても検討していく必要があります。

### 防波堤の整備

- ・これから水揚げシーズンを迎え、もし台風が来ても女川港内の防波堤がないので、船を安全に係留できません。防波堤の整備を最優先にすべきだと思います。

### 土地利用の合意形成

- ・今回の復興では市街地の骨格まで変えることになり、不動産の所有、土地利用についての合意形成が重要です。
- ・ひとまず土地の問題、かさ上げの整備が最優先であり、住民の皆さんや関係機関とも話し合いのうえ、理解を求めていく必要があります。

### 水産業の研究拠点

- ・女川には東北大学の研究拠点があり、文科省もサポートする計画を立てたいとしています。これを踏まえ、復興方針に「海洋研究学術ゾーン」を設定してもいいのではないのでしょうか。
- ・海洋研究を学ぶ学生の中には、女川に住みたいと言っている人もいます。
- ・女川のまちづくりの一環として、教育も重要なテーマです。

### 津波の研究拠点

- ・記録の継続性や学問的視点から見ても最重要地です。
- ・倒壊ビルの保存を決断すれば、世界の津波被害軽減のための「女川基準」ができます。
- ・女川でのビル倒壊プロセスを解明することで30年後、50年後の世界中の尊い命を救うこととなります。

### 震災メモリアル施設の保存

- ・施設は現状の場所、状態のまま保存してほしい。
- ・倒れ方や流され方がそれぞれ違うので、複数か所残したほうがよいと思います。
- ・メモリアル施設での展示もあり得ると思いますので、地域の皆さんからの了承を得たうえで、止まった時計など、ガレキの中から女川の教訓を伝えられるものは保存しておくべきだと思います。
- ・過去の被災地の例では、災害伝承と観光の2つの側面を持たせることができています。

**復興へのご意見をお寄せください。お待ちしております。**

女川町企画課復興推進室 0225-54-3131

女川町公式ホームページ(URL:<http://www.town.onagawa.miyagi.jp>)内『女川町企画課復興推進室』のページから復興計画の取り組み状況などについてごらんいただけます。